

## 設立 20 周年記念シンポジウムを開催

企画広報委員会

2019 年 11 月 29 日、けんぽ会館において当協会設立 20 周年記念シンポジウムを開催いたしました。本シンポジウムには多くの関係者やマスコミ等の約 40 名が出席し、堀澤理事の司会のもと、当協会の岡田理事長の挨拶に続き、(公社)日本下水道協会の岡本課長による講和、当協会の技術委員会による報告がありました。

最初に岡田理事長より、当協会が 20 周年を迎えることができたことへの関係各位への謝意が表せられ、ディスポーザ排水処理システムは 70 万戸の住宅に設置され、6 千基以上の排水処理槽が稼働しており、国民の 1% に相当する人々がディスポーザを使用するまでに発展、今後も定款の活動目的であるディスポーザを用いた生ごみ処理システムの適切な普及促進に向け、ますます協会活動を活発化させていくとの挨拶がありました。

### 1. 排水設備等規格適合評価・製品認証制度について

(公社)日本下水道協会技術研究部規格検査課の岡本課長より、ディスポーザ排水処理システムの根幹を成す規格適合評価・製品認証制度について、お話をいただきました。

まず、本システムが最初に設置された旧建設大臣認定を端緒に、その技術内容である「下水道のためのディスポーザ排水処理システム性能基準(案)」の変遷に触れ、その中で(公社)日本下水道協会の位置づけを明確にするためにも、「ディスポーザ排水処理システム暫定規格(JSWAS K-18)」を制定したとのお話がありました。

次に JSWAS K-18 の概要について紹介され、本論である規格適合評価制度については、評価書や製品一覧をご紹介いただき、最終的に排水設備等規格適合評価制度は、屋外排水ますまで展開する等の将来に向けた方向性を示されました。

また、一方の製品認証制度については、認証の流れやマークをご紹介いただき、ISO/IEC17065 に準じた工場での品質管理体制まで踏み込んだ制度であることを解説され、その手続き等もご紹介いただきました。

最後に当協会も参画している暫定規格(JSWAS K-18)の改正案検討状況について、規格適合評価の更新が一通り終了したとの規格改正開始のきっかけや、現状の作業状況についてご説明いただきました。



記念シンポジウム



岡田理事長挨拶



岡本課長による講和

## 2. 技術報告

### 2.1 ディスポーザ排水処理槽に関する負荷の実態調査

野津技術委員より、当協会が実施したマンション用ディスポーザ排水処理システムの排水処理槽への流入負荷調査について、報告がありました。

本調査は維持管理の適正な有効性や運用方法の検討を目的として、関東近郊の集合住宅 5 件を抽出し、流入水質の分析評価、厨芥排水の負荷変動、台所排水量の調査を実施いたしました。

調査の結果、まず各排水処理槽が定期的な維持管理を行うことで適正な運用が行われていることを確認したうえで、流入負荷が設計値よりも下回っていること、時間や曜日で排水負荷ピークを確認したことが報告されました。

今後の取組として、継続的に排水負荷の実態調査を実施し、特に高負荷であった曜日の排水負荷変動や、排水処理槽設計の原単位となる一居室当たりの対象人員の調査等に展開していくとの報告がありました。

### 2.2 戸建て住宅でのディスポーザ排水試験報告

金子技術委員より、5 月に実施した直接投入型ディスポーザ実施エリアでの戸建て住宅を想定した排水試験の報告がありました。

今回は当協会として初の試行であることから、まず 1960 年頃のわが国へのディスポーザ導入に至る背景や 1990 年からの家庭用ディスポーザの設置状況を振り返りました。

その上で昨今のインターネット普及を踏まえ、現状、年間 3 万台近くの排水処理不明のディスポーザが設置されていると推定、ディスポーザには排水処理が必要であることを一般化するために、直接投入型ディスポーザを含むディスポーザ処理システムの認知向上が必要で、その一環として本試験を実施したとの説明がありました。

試験結果では、インバートますにディスポーザと専用トラップを接続した場合、排水管内圧力とトラップの封水挙動に問題がないことを確認し、トラップますにディスポーザと専用トラップを接続した場合には、排水管内の圧力変動を緩和させる通気が必要であることを確認、これらを数値と動画を用いて報告いたしました。

以上の講和と技術報告が終了した後、懇親会を開催して協会設立 20 周年記念シンポジウムを終了いたしました。



野津委員報告



20 周年記念誌（出席者配布）



懇親会